



2022-23 年度  
国際ロータリー会長  
ジョニファー・ジョーンズ

# Weekly Report Niigata



2022~23 年度  
新潟ロータリークラブ会長

石川 治孝

新潟 RC 12月第2例会 (2022.12.13) (Zoom 例会併催) No.3440

## (1) ロータリー—ソング「四つのテスト」ピアノ演奏

## (2) 石川 治孝会長挨拶

本日は桂離宮の拝観コースに従ってこの庭を紹介していきたいと思ひます。桂離宮の庭園の情報量は膨大で一回では紹介しきれません本日はその前半で入口から御幸門(みゆきもん)、外腰掛(そとしかけ)、松琴亭(しょうきんてい)、賞花亭(しょうかてい)までとします。桂離宮には独自の竹垣が二種類あります一つは、川に面する外壁にある、生きた竹の枝を編んだ「笹垣」です。

きめ細かく編み込んであり。竹の生け垣、世界でここだけの垣根です。この垣根は川べりの境界のみ、このような形になっており、水害の時には水流をまともに受け倒壊するのではなく、水の勢いだけは弱めつつ、土壌をはぎとられてしまうような被害を防ぐ工夫ともいえるものです。角までくると、竹の垣根となる。「穂垣」を桂垣と私たちは呼んでいますが。きな竹の胴縁の中を竹の穂つまり小枝を節や枝の向きをそろえ編み込んで作ります。第三期の工事で以降にこのような竹垣が考案されたこととされており、これから見る御幸門や、外腰掛などから見ると少し武骨な感じがします、縦に使っている竹は先端も鋭く切っており防犯上このような形も竹垣考案したのではないかなと思ひます。「表門」の周辺です。じつにさりげなく、控えめな佇まいではありますが、表門は、よく見るとすべて割竹を当てていて、しかも非常に密に打ち込まれています。桂離宮には竹が多く使われていて、より素朴で軽快印象を受けます。「通用門」参観者の入口である。通用門を過ぎるとようやく拝観入口になります。まずは、通用門から入って池側である右方向に向きますと。池に張り出したところに生垣の間から見えるに小さな松がある。「住吉の松」と言われ、この庭には庭の全貌が見とれない工夫がされていますがこれもその一つで、小道の先端は丸く盛り上げた土の突端になっており、亀の甲とよばれたそうです。こはみ御幸道(ゆきみち)と言われる園路で、黒い石を中心とした小さな石がていねいに天を平らな面をそろえ一面に埋め込まれています。この技法を、あられこぼしと言ひますが。膨大な手間暇がかかる一種の延段で、一日一人30センチくらいしか施工できなかつたと言ひます。舟小屋の脇を通過して御幸門をめざします。低い垣根で隠してあるが、のぞくと「舟小屋」が見えます。昔は桂川とつ

ながっていた川水の入り口である場所で、ここに船を止め園内に入ったのかもしれないし、またここから舟を浮かべて客をもてなしたと考えられます。御幸道の奥まで行くと御幸門が見えてきます、この門の柱は「あべまき」という木です、「あべまき」クヌギの仲間です、皮がコルクの材料となる木で、皮付きの柱が使われており、また栗のナグリ仕上げの柱が使われ、屋根は茅葺で粗い格子の扉となっていてあえて田舎風の形で仕上げられています。御幸門の右手前の足元にある四角い石。上皇の輿(こし)を停めるための場所だったようです。奥に表門が見えますがここまでは砂利敷、でここから手の込んだあられこぼしであった理由もよくわかります。御幸みちを進むとそして外腰掛、といったお茶室、松琴亭のための待合に到着します。ここに蘇鉄山、紅葉山がありその裏に外仕掛けがあります。ここまで庭園が一望できず、もう少し先の庭の景色をあえてみせていません。「外腰掛」の前にある蘇鉄山。桂離宮のなかでかなり異色の風景である。薩摩藩からの贈り物だという。

松琴亭の茶会の客にまず薩摩藩島津家献上の蘇鉄を見せる、薩摩藩といえば、幕府が最も警戒していたはずだから。なにやら幕府との微妙な政治的駆け引きを想像させる点でもあります。

蘇鉄山の、延段と言われる敷石の道。直線の切石と自然石を組み合わせてまっすぐな道になっている。先端に石灯籠が置かれてアイストップになっています。外腰掛前の延段。厳しい切石の直線と自然石を組み合わせた直線。「行の延段」と言われている。桂離宮では延段が多用されているがその中の、習字で言う「真・行・草」の行の延段がこれです。石灯籠と手水鉢。二重枱形の手水鉢があります。外腰掛。松琴亭のための待合として作られたもので、すべて皮つきの曲がった自然木がわざわざ使われている。古書院などの書院建築とは全く違う考え方で作られておりその対比が面白いところです。

待合からは見えなかつた「松琴亭」が、池をはさんで見えてきます。そして進みますと、左から平たい石を集めて作られた「州浜」が伸びてその先端に小ぶりの石灯籠(岬灯籠)が置かれていて、これまでいろいろご紹介してきた庭園のように海を象徴して作られております。

荒磯や、州浜や天橋立などが表現されていて、池の護岸の石の使い方や三寶院や二条城のような使い方をしており、立石も数多く見られ豪華かつ緊張感あふれる構成になっています。枝の間に「まんじ亭」が見える。4つの腰掛けが互いに向き合わないように卍型に作られた待合です。手前の石橋は、真直ぐな一本石がかかっていますが石橋に使われているのは京都白川産で、白川橋と名付られています。そして桂離宮最大のお茶室である、松琴亭ですが、深い軒の下。ひょうたん形とも見てとれる下地窓や、軒桁(のきげた)は皮付きの「あべまき」丸太。垂木は竹。と自由に作った遊び心のあふれる建築でありこの建物から見る庭は松が多くまさに松琴亭とその名の通りです。松琴亭の「土庇(どびさし)」の下。土塗の竈(かまど)。などがあるが、庭を存分に鑑賞するための、半戸外の茶席という形です、目の前の庭はうみを表し半戸外の茶室なので、ビートサイド浜茶屋的の納涼会的なアウトドア的な雰囲気を楽しんでいたと想像できます。襖(ふすま)と床の間の壁が青い和紙の市松張り。加賀の和紙、加賀奉書紙(かがほうしょし)を藍で染めたという。桂離宮の中でももっとも大胆なデザインであるともいえる場所です。またここには以前朱塗りの大橋がかかっていたとされています。ここにその様な構造物があったとすれば、松琴亭の青の市松模様と朱塗りの大橋がかなり色的にもせめぎ合い印象が現在と大きく異なると想像されます。ここからまた世界が変わり山の風景に変化します。これまでであった池の護岸の景石もほぼ姿を消しなだらかな線を見せる護岸に変わりまた足元も段差のきつい飛び石が続きます。そしてたどり着くのは本日最後に紹介する「賞花亭(しょうかてい)」です、「賞花亭(しょうかてい)」は池を掘ったときにでた土を盛り上げた山の上に建っています、眼下海に見立てた池や書院群、遠くに愛宕山を望んだ峠の茶屋を見立てた待合です。かつては、軒先に龍田屋と染め抜いたのれんが下がっていたらしいのですが、最近では、見学に不便ということで外しているそうです。なんとも透明感のある連子格子の窓と、目一杯大きな下地窓。夏なら涼しい風が通り抜けてゆく快適な場所だろう。と思わせる場所です。本日はここまでにしますが、庭園のやっとな半分です。素晴らしい庭園なのですが、ヒツヒツ見ていたら1日あっても足りないくらいの見どころ沢山の庭園です。次週は 園林堂(おんりんどう)から笑意軒そして古書院、そして月波楼へを見ていきたいと思ひます、やっとな半分まで来ましたお疲れ様でした。

### (3) 各種ご寄付の発表

#### ロータリー財団寄付発表(苅部 雄一委員)

12/6 受付

本間 彊君 坂井 賢一君

12/13 受付

石川 治壺君 岡村 健吉君

本間 彊君

#### 米山奨学会寄付発表(渡辺 浩幸委員長)

高橋 秀松君

#### 青少年育成基金寄付発表(武田 眞二副委員長)

石川 治壺君 12/6 受付

高橋 秀松君 12/13 受付

### (4) ニコニコボックス紹介(深澤 康志委員)

・坂本信君 三条市立大学長 シャハリアル学長お越し下さり、ありがとうございます。

・大桃 典和君 昨日、結婚記念日のお祝いのお花が届きました。カミさんから「私の好きな BTS のシンボルカラーの紫にしてくれたんだね」と言われました。私は何のことかさっぱりわかりませんでしたが「もちろん、そうだよ！」と答えておきました。このようなやりとりをご提供して下さいましたロータリークラブに感謝してニコニコします。

・高野潤君 亀田製菓の大豆ミートを使った料理がテレビ、新聞などで取り上げていただきました。地区大会での提供が大きく影響致しました。実行委員会の皆様に感謝です。

### (5) 卓話 「三条市立大学の未来志向の学び

“Education for the Future”

三条市立大学 アハメド シャハリアル学長



### (6) 12月13日の例会参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
90	88	67	76.14

Zoom参加 17名

次回例会、20日は動画による

新潟明訓高校インターアクトクラブ活動報告を予定しております。

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>